



盛夏となり、暑い日が続いていきます。今年度の気温は気象庁の長期気温予測では、「平年より高め」となっています。熱中症にも十分注意が必要です。

この時期、防虫目線でみると捕獲数が少し減少するところもあります。野外では虫も暑すぎると夏バテ傾向になるといったところでしょうか。

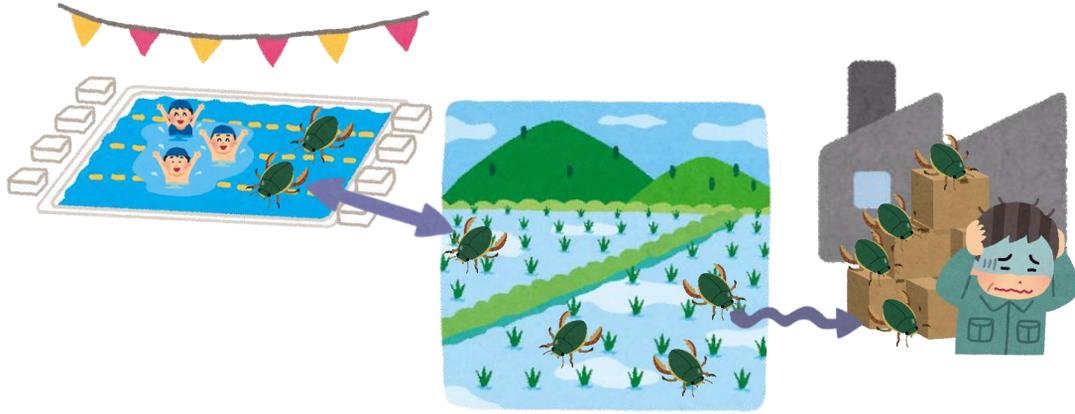
そんな中、この時期に時々ご相談をいただく虫に「水生昆虫」がいます。その中でも、工場周囲に飛来したり侵入してきたりすることで、よくご相談いただくのはコウチュウ目に属するものです。例としては小型のガムシ類、ドロムシ類、マルハナノミ類、ジウンサイハムシ、ゲンゴロウ類などです。

これらの虫は突然大量に工場に侵入してきたり、灯火に集まったりすることがあること、見た目が大きく存在感があること、普段あまりなじみのない虫であることなどから、目にする、なにごとかとびっくりされ、ご連絡をいただくようです。

水生昆虫はその名の通り、水の中に住んでいます。その中には、田んぼやそれに流れ込む水路やため池をすみかとしている虫も多くいます。これらの環境では、急激に水量や温度が変化するため、そこで生きている昆虫類は大変です。春から梅雨にかけて水がたくさんある時期にはそこに定着して、生活、繁殖してきますが、環境が悪化するとそこから一気に分散することがあります。そんな時、上記のように工場周囲にもたくさん近づいてきて驚かされることがあるわけです。突発的な発生を予測するのは難しく、過去を遡り、こんなこともあった、という記録や記憶を頼りに対策を行うしかない場面も多いです。

防虫という点、自社の建屋内部を中心に考えてしまいがちですが、周囲の環境についても知っておくことで、防虫活動の助けとなることもあります。航空写真などもインターネットで簡単に手に入る時代です。一度みなさまの工場がどのような

環境に置かれて起きているのか、どのような問題が起こりうるのか、ということも想像しながら、専門家と相談し、情報をまとめ、「防災マップ」ならぬ「防虫マップ」を作ってみてはいかがでしょうか。



## 都市型のゲンゴロウ



図鑑ではおなじみ、ぼったりとした楕円形のフォルムで、黄色っぽい縁を持つ深緑色の体の「ゲンゴロウ」という昆虫を目にしたことはあるでしょうか？このイメージのゲンゴロウはナミゲンゴロウ (*Cybister japonicus*) ですが、「ナミ (並)」という名前とは裏腹に、日本全国のほとんどの地域で絶滅危惧種または準絶滅危惧種となっており、東京都ではすでに絶滅とされており、日本から姿を消しつつある昆虫の1種です。

一方、トピックでもご紹介したように、ゲンゴロウの仲間には、やや開けた水田や都市部などでもたくさん見られる種類もあります。ハイロゲンゴロウやヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、マメゲンゴロウなどがその代表でしょうか。これらの種類は比較的汚れた環境にも強く、羽化の際にもぐる土の厚さも薄くてよいので、護岸壁があっても繁殖できる強みがあります。このため、ハイロゲンゴロウなどは条件次第で大量発生して、工場に侵入し、防虫担当者を悩ませる、という状況もあります。

これらの種類は田んぼや小池などを中心に、小学校のプールなどの水域も転々とするところから、比較的身近な種類かもしれません。呼吸をするためにおしりに空気の泡を付けて、オールのような足で一生懸命泳ぐ姿、水草を荒らすこともなく、煮干しやちりめん、カツオブシのような工サをあげると抱えて一生懸命食べようとする姿など、その行動は面白いですが、もし近くにいたら、少し観察してみたいか、がでしょうか？しかし、環境が気に入らないうちに飛び去ってしまうので、注意してくださいね。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-1-19-20

TEL 086-241-8080

FAX 086-241-8094

拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島

高松・松山・金沢